

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月12日

【四半期会計期間】 第88期第2四半期(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

【会社名】 高砂香料工業株式会社

【英訳名】 TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井垣 理太郎

【本店の所在の場所】 東京都大田区蒲田5丁目37番1号

【電話番号】 03 - 5744 - 0516

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長 笠松 弘典

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区蒲田5丁目37番1号

【電話番号】 03 - 5744 - 0516

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長 笠松 弘典

【縦覧に供する場所】 高砂香料工業株式会社大阪支店
(大阪市北区堂島浜1丁目4番16号アクア堂島NBFタワー6階)

高砂香料工業株式会社名古屋支店
(名古屋市中区錦1丁目10番27号カネヨビル3階)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第87期 第2四半期 連結累計期間	第88期 第2四半期 連結累計期間	第87期
会計期間		自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高	(百万円)	60,152	66,234	118,973
経常利益	(百万円)	3,837	4,604	7,475
四半期(当期)純利益	(百万円)	2,641	2,178	4,673
四半期包括利益 又は包括利益	(百万円)	2,601	6,617	9,783
純資産額	(百万円)	55,029	67,396	61,296
総資産額	(百万円)	123,883	145,663	131,754
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	26.61	21.95	47.08
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	43.4	45.4	45.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,117	1,535	5,724
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,538	4,006	5,363
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	759	2,057	1,372
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	10,571	13,640	13,336

回次		第87期 第2四半期 連結会計期間	第88期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	10.95	6.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社においても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は弱い回復基調で推移いたしました。欧米では一部持ち直しの動きも見られたものの、アジア地域では景気の拡大テンポが依然緩やかなものにとどまっています。

わが国の経済は、海外経済の減速に伴う下振れ懸念はあるものの、政権交代後の経済政策への期待を背景とした円安進行や株価の回復等が見られ、雇用情勢の改善と個人消費の伸張が伺えます。

香料業界においては、中国や東南アジア他の新興成長市場をはじめとして順調に推移した一方で、寡占化傾向にある海外市場での大手香料会社同士による激しいシェア争いや、成熟している国内市場での事業展開など、内外ともに非常に厳しい競争環境が続いております。

また、本年4月10日に当社平塚工場のフレーバー製造棟において火災事故が発生いたしました。製品の供給につきましては、火災事故後は、当社他工場、当社グループ会社及びその他委託先への製造移管で対応しておりましたが、当社平塚工場及び鹿島工場を中心に火災事故を教訓とした安全対策も盛り込んだ設備改修工事を実施いたしました。10月より安定した生産体制への移行を進めております。

このような中、当社グループは「信頼される商品を生産し続けることにより、グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す。」の経営基本方針の下、中期経営計画『NEW TAKASAGO GLOBAL PLAN (GP-2)』（2012-2014年度）を始動させ、世界27の国と地域における堅固なグローバル連結経営により事業を推進いたしました。当第2四半期連結累計期間の売上高は、66,234百万円（前年同四半期比10.1%増）となりました。部門別売上高では、フレーバー部門は、主に米国子会社が伸長し、41,428百万円（前年同四半期比10.4%増）、フレグランス部門は、アジア子会社が好調に推移したことにより、16,179百万円（前年同四半期比19.0%増）、アロマケミカル部門は、為替の影響等により、5,405百万円（前年同四半期比17.1%増）、ファインケミカル部門は、医薬中間体の不調により、2,550百万円（前年同四半期比31.1%減）となりました。その他不動産部門は、670百万円（前年同四半期比6.5%減）となりました。

利益面では、営業利益は4,388百万円（前年同四半期比15.2%増）、経常利益は4,604百万円（前年同四半期比20.0%増）となりました。四半期純利益は、平塚工場の火災事故に係る損失を1,338百万円計上した結果、2,178百万円（前年同四半期比17.5%減）となりました。

セグメントにつきましては、日本は、当社のアロマケミカル部門等が好調に推移し、売上高は35,478百万円（前年同四半期比1.0%減）、営業利益は3,036百万円（前年同四半期比7.6%増）となりました。

米州は、主に米国子会社の増収により、売上高は13,195百万円（前年同四半期比33.4%増）、営業損失は134百万円（前年同四半期は営業利益9百万円）となりました。欧州は、ドイツ子会社が好調に推移し、売上高は8,622百万円（前年同四半期比28.6%増）、営業利益は121百万円（前年同四半期は営業損失68百万円）となりました。アジアは、シンガポール子会社等が好調に推移し、売上高は8,937百万円（前年同四半期比16.0%増）、営業利益は1,445百万円（前年同四半期比43.8%増）となりました。

(2) 財政状態の状況

総資産は、前連結会計年度末と比較して13,909百万円増加し、145,663百万円となりました。主な増減は、受取手形及び売掛金の増加3,236百万円、商品及び製品の増加2,386百万円、有形固定資産の増加4,598百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末と比較して7,809百万円増加し、78,266百万円となりました。主な増減は、支払手形及び買掛金の増加2,309百万円、短期借入金の増加3,419百万円等であります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して6,099百万円増加し、67,396百万円となりました。主な増減は、利益剰余金の増加1,781百万円、為替換算調整勘定の増加3,456百万円等であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より304百万円増加し（前年同四半期は633百万円の減少）、13,640百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、1,535百万円（前年同四半期は1,117百万円の増加）となりました。主なものは、税金等調整前四半期純利益3,252百万円、減価償却費2,242百万円に対して、たな卸資産の増加2,665百万円、法人税等の支払1,311百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の流出は、4,006百万円（前年同四半期は2,538百万円の流出）となりました。主なものは、有形固定資産の取得による支出3,517百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の収入は、2,057百万円（前年同四半期は759百万円の収入）であります。主なものは、短期借入金の増加3,028百万円、配当金の支払396百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

(株式会社の支配に関する基本方針)

1. 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社グループは「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」の企業理念の下、常に香料及びその関連技術の最先端の研究を続け、フレーバー製品、フレグランス製品の原料提供を通じて消費者に高付加価値な製品を提供しております。また、医薬中間体を中心とするファインケミカル事業の分野においても、グローバル市場での厳しい競争環境にもかかわらず世界的に高い評価を得ております。

その結果として、当社グループは、国内香料業界のリーディングカンパニーであると同時に、アジア唯一のグローバル香料会社としてのポジションを築き上げ、世界でも屈指の香料会社に成長してまいりました。

このような当社の持続的な競争優位性・企業価値を支えているものは、次の諸点と考えております。

長年培ってきた技術力とそれを基盤とした事業シナジー

長年培ってきた高品質且つ高付加価値の合成香料の製造及び医薬中間体の開発をはじめとするファインケミカル事業を支える不斉合成技術・触媒反応等の技術。またこれらの技術を基盤として、有機的一体として結合している4つの事業の強みを活かしながら事業展開することによる、競合他社には無い独自のシナジー効果の発揮。

多様な嗜好性への深い理解とそれを活かす創香の経験やノウハウ

消費者の多様な嗜好性に対応するお客様の商品開発を強力に下支えするための創香に関する経験と技術的な蓄積。さらには、少量多品種かつ変化の激しい香料市場において、お客様の要望に迅速に対応するために確立された生産・供給体制。

厳しい安全性基準を満たす製品への高い信頼と、これを維持するノウハウ

その性格上非常に厳しい安全性を求められる香料製品について、関連法令はもとより、厳格な社内基準をも満たす当社製品の高い品質・安全性とそれを維持管理するために長年に亘り蓄積された情報により確立されたシステム。

グローバルに経営資源を有効活用できる組織体制

各事業で蓄積されたノウハウを海外拠点も含めた当社グループで共有・有効活用し、世界規模で営業展開するグローバルなお客様への対応やグローバル事業展開を図るために確立された業務推進組織体制。

以上の強みを生かし、当社は今後も成長してまいります。

しかし、近時、わが国の資本市場においては、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大量の株式の買付を強行するといった動きが顕在化しつつあります。もとより、当社は、株式の大量買付等であっても、当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。しかしながら、株式の大量買付等の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付等の行為について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

とりわけ、長年にわたり蓄積してきた膨大なノウハウと高い技術力に裏打ちされた当社独自の事業展開によるシナジー効果の評価、さらにはあらゆる消費財と地域の嗜好に対応した多品種な香料製品を提供する当社の企業価値の評価は困難であり、当社の企業価値の適正な評価には時間を要する上に、買付の条件等が当社の本源的価値に鑑み不十分又は不適當でないかについて慎重な判断を要します。

また、当社の4事業の一部が売却されるようなことがあれば、各事業分野の有機的結合により実現される大きなシナジー効果が失われるおそれが高く、また、長期的視点に立っての研究開発及び品質・安全性に対する継続的な投資が行われませんと、技術的基盤が弱体化するのみならず、当社製品の高い安全性への信頼が損なわれ、当社の企業価値・株主共同の利益が毀損されることとなります。

こうした事情に鑑み、当社取締役会は、当社株式に対する大量買付行為が行われた際には、主として次の種類の買付行為を行う株主は、当社の企業価値・株主共同の利益の観点から、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと判断しました。具体的には、大量買付行為のうち、後述の本プランに定める手続を遵守しない買付、当社の企業価値・株主共同の利益を明白に侵害するおそれのある買付、強圧的二段階買付等、株主の皆様は株式の売却を事実上強要するおそれのある買付、買付の条件等（対価の価額・種類、買付の時期、買付の方法の適法性、買付の実現可能性、買付後の経営方針又は事業計画、買付後における当社のお客様、取引先、従業員等に対する対応方針等を含みます。）が当社の企業価値に鑑み不十分又は不適当な買付を行う場合、当該買付行為を行う株主は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと判断しました。

2. 当社基本方針の実現に資する取組みについて

当社グループは、創立100周年を迎える2020年に向けて世界トップクラスの香料会社となることを長期ビジョンとした『NEW TAKASAGO GLOBAL PLAN』を掲げており、平成24年度からは新たな中期経営計画『NEW TAKASAGO GLOBAL PLAN (GP-2)』（2012-2014年度）に取り組んでおります。

当社グループの経営基本方針の一つは「信頼される商品を供給し続けることにより、グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す。」であり、GP-2ビジョンと基本戦略の遂行を通して当社グループのブランド価値と企業価値、及び株主共同の利益の向上を追求いたしております。

中期経営計画における骨子は次のとおりです。

「グループ基本戦略」

グローバルでの全体最適の追求

グループ経営資源の一元管理体制によるグローバルでの効率化を図る。

差別化によるブランド確立

確かな品質の提供、優位性のある技術、差別化された付加価値の創造により顧客と一緒に高砂ブランドを築いていく。

技術革新による優位性の確立

消費市場の革新的な商品開発に寄与できる技術・素材の開発による、顧客・消費者を満足させる製品を提供していく。

サステナブル経営の追求

社会と共存する開かれた企業を目指す。

このような、競争優位性を確立し持続的な成長を実現するための取組みにより、ブランド価値と企業価値、及び株主共同の利益の向上を追求してまいります。

3. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み《買収防衛策》

当社は、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として、当社株式の大量取得行為に関する対応策を導入しております。

この対応策は、平成19年6月28日開催の第81回定時株主総会において株主の皆様への承認を得て導入し、平成22年6月25日開催の第84回定時株主総会及び平成25年6月26日開催の第87回定時株主総会における承認を得て更新しております。(以下、更新後の対応策を「本プラン」といいます。)

本プランは、当社株式に対する買付その他の取得若しくはこれに類似する行為又はその提案(以下総称して「買付」といいます。)が行われた際に、買付を行う者又はその提案者(以下総称して「買付者」といいます。)に対し、遵守すべき手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報と時間を確保するとともに、買付者との交渉の機会を確保することにより、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的としています。

なお、現時点において、当社が特定の第三者から当社株式の大量買付を行う旨の提案を受けている事実はありません。

具体的には、買付者により以下のいずれかに該当する買付(以下「対象買付」といいます。)がなされたときに、本新株予約権の無償割当てをするか否かを検討します。買付者は、本プランに従い、当社取締役会が本新株予約権の無償割当ての不実施に関する決議を行うまでの間、買付を実行してはならないものとします。

当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付

当社が発行者である株券等について、公開買付けを行う者の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

当社の株券等について買付等が行われる場合、当該買付等を行う買付者等には、買付内容等の検討に必要な情報及び本プランを遵守する旨の誓約文言等を記載した「意向表明書」を当社に提出していただきます。その後、買付者等から提出された情報が、経営陣から独立している社外取締役、社外監査役又は有識者のいずれかに該当する者で構成される特別委員会に提供され、その評価、検討を経るものとします。特別委員会は、独立した第三者(ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。)の助言を独自に得たうえ、買付内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主の皆様に対する情報開示等を行います。特別委員会は、買付者から提出された「買付説明書」の記載内容が必要情報として不十分であると判断した場合には、買付者に対し、適宜合理的な回答期限を定めた上、直接又は間接に必要な情報を追加提出するよう求めることがあります。

特別委員会は、買付者が本プランに定められた手続を遵守しなかった場合、その他買付者等の内容の検討の結果、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合など、本プランに定める要件のいずれかに該当し、本新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、当社取締役会に対し、本新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。

当社取締役会は、特別委員会が本新株予約権の無償割当ての実施に際して予め株主総会の承認を得るべき旨の留保を付した場合、又は本新株予約権の無償割当ての要件の該当可能性が問題となっている場合等、本新株予約権の無償割当てを実施するに際して株主意思を確認することが適切と判断する場合には、株主総会を招集し、本新株予約権の無償割当ての実施に関する株主の皆様への意思を確認することができるものとします。

4. 上記3. の買収防衛策に対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、以下の理由から、本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社経営陣の地位の維持を目的とするものではないと判断しています。

株主意思を反映するものである

- イ．本プランは、平成25年6月開催の定時株主総会における株主の皆様のご承認をいただきました。
- ロ．本プランの有効期間の満了前であっても、当社取締役会の決議によって本プランを廃止することができます。
- ハ．取締役の任期を1年としており、取締役の選任を通じて株主の皆様の意思を反映されます。

独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの発動等の運用に際して、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために実質的な判断を客観的に行う機関として、社外役員及びこれに準じた独立性を有する外部有識者を委員とする特別委員会を設置します。これにより、当社経営陣の恣意的判断を排し、その客観性、合理性を担保すると同時に、特別委員会は当社の実情を把握し当社の企業価値を構成する要素を十分に把握した上で、買付が当社の企業価値・株主共同の利益に及ぼす影響を適切に判断できると考えています。

更に、特別委員会の判断の透明性を高めるため、買付者から提出された「買付説明書」「意向表明書」ならびに特別委員会が追加的に提出を要求した必要情報の概要、買付者の買付内容に対する当社代表取締役の意見、代替案の概要、その他特別委員会が適切と判断する事項について、原則として株主の皆様に対し速やかに情報開示を行います。

本プラン発動のための合理的な客観的要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、これらの客観的要件は基本方針における当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと思われる場合と一致させています。これにより、当社の会社役員による恣意的な発動を防止します。

第三者専門家の意見の取得

特別委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができます。これにより、特別委員会による判断の公正さ、客観性がより強く担保されます。

デッドハンド型やスローハンド型の買収防衛策ではないこと

本プランは、株券等を大量に買い付けた者の指名に基づき当社株主総会において選任された取締役で構成される取締役会により廃止が可能であるため、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社においては取締役の期差任期制は採用されていないため、本プランは、スローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

（注）以上は概要となりますので、詳しい内容に関しましては当社ウェブサイト平成25年4月30日付「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の更新について」を御参照下さい。

（<http://pdf.irpocket.com/C4914/qz1z/tXLL/necm.pdf>）

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、4,792百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	100,761,988	100,761,988	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000 株であります。
計	100,761,988	100,761,988		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		100,761,988		9,248		8,355

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,880	10.8
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	8,200	8.1
クレディ・スイス・セキュリティーズ (ヨーロッパ)リミテッド ピーピー オムニバス クライアント アカウント(常 任代理人 クレディ・スイス証券株式会 社)	One Cabot Square, London E14 4QJ, United Kingdom (東京都港区六本木1丁目6-1 泉ガーデンタワー)	4,760	4.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	4,735	4.7
共栄火災海上保険株式会社	東京都港区新橋1丁目18-6	3,754	3.7
中江産業株式会社	大阪市中央区本町2丁目1-6 堺筋本町センタービル8階	3,603	3.6
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行 株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目3-3 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	3,023	3.0
ステート ストリート バンク アンド トラ ストカンパニー (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営 業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区月島4丁目16-13)	2,713	2.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	2,568	2.5
株式会社紀陽銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託 銀行株式会社)	和歌山市本町1丁目35 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	2,359	2.3
計		46,598	46.2

(注) 1. 上記の所有持株数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 10,880千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 2,568千株

2. 株式会社みずほ銀行より連名で平成25年7月22日付け大量保有報告書(変更報告書)の提出があり、平成25年7月15日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けております。

下記の株式会社みずほ銀行の所有株式数3,023千株については全て確認ができておりますが、みずほ信託銀行株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社の所有株式数については、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記表には含めておりません。

(変更報告書の内容)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	3,023	3.0
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2番1号	954	1.0
みずほ投信投資顧問株式会社	東京都港区三田3丁目5番27号	317	0.3
計	-	4,294	4.3

3. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループより連名で平成24年1月6日付け大量保有報告書（変更報告書）の提出があり、平成23年12月26日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けております。下記の株式会社三菱東京UFJ銀行の所有株式数4,735千株については全て確認ができておりますが、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社の所有株式数については、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記表には含めておりません。

（変更報告書の内容）

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	4,735	4.7
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	2,438	2.4
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	170	0.2
計	-	7,343	7.3

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,537,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 98,702,000	98,702	
単元未満株式	普通株式 522,988		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	100,761,988		
総株主の議決権		98,702	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式98,702,000株(議決権数98,702個)には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には、当社保有の自己保有株式が245株含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
高砂香料工業株式会社	東京都大田区蒲田 5丁目37番1号	1,537,000		1,537,000	1.53
計		1,537,000		1,537,000	1.53

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,336	13,640
受取手形及び売掛金	² 26,857	30,094
商品及び製品	18,364	20,750
仕掛品	249	318
原材料及び貯蔵品	12,710	14,232
その他	3,237	3,804
貸倒引当金	433	489
流動資産合計	74,322	82,351
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,189	20,564
その他(純額)	17,312	21,534
有形固定資産合計	37,501	42,099
無形固定資産	2,435	2,422
投資その他の資産		
投資有価証券	15,891	17,111
その他	1,715	1,790
貸倒引当金	111	111
投資その他の資産合計	17,495	18,790
固定資産合計	57,431	63,311
資産合計	131,754	145,663

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 12,013	14,323
短期借入金	20,053	23,473
1年内返済予定の長期借入金	4,990	4,618
1年内償還予定の社債	220	220
未払法人税等	1,456	1,097
賞与引当金	1,609	1,628
役員賞与引当金	12	14
その他	6,289	8,287
流動負債合計	46,644	53,663
固定負債		
社債	220	110
長期借入金	13,868	14,503
退職給付引当金	7,532	7,272
役員退職慰労引当金	17	9
その他	2,175	2,706
固定負債合計	23,812	24,603
負債合計	70,457	78,266
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,248	9,248
資本剰余金	8,357	8,357
利益剰余金	43,545	45,326
自己株式	597	599
株主資本合計	60,554	62,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,314	6,998
繰延ヘッジ損益	-	4
為替換算調整勘定	6,664	3,207
その他の包括利益累計額合計	350	3,786
少数株主持分	1,092	1,276
純資産合計	61,296	67,396
負債純資産合計	131,754	145,663

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	60,152	66,234
売上原価	41,485	45,280
売上総利益	18,667	20,953
販売費及び一般管理費	¹ 14,856	¹ 16,564
営業利益	3,810	4,388
営業外収益		
受取利息	16	20
受取配当金	195	177
持分法による投資利益	61	-
為替差益	-	134
その他	208	199
営業外収益合計	482	531
営業外費用		
支払利息	227	218
持分法による投資損失	-	39
為替差損	155	-
その他	72	58
営業外費用合計	455	315
経常利益	3,837	4,604
特別利益		
固定資産売却益	2	0
段階取得に係る差益	99	-
その他	10	-
特別利益合計	112	0
特別損失		
固定資産処分損	7	9
投資有価証券評価損	-	3
火災事故による損失額	-	1,338
特別損失合計	7	1,351
税金等調整前四半期純利益	3,942	3,252
法人税、住民税及び事業税	1,053	1,111
法人税等調整額	145	182
法人税等合計	1,199	929
少数株主損益調整前四半期純利益	2,742	2,323
少数株主利益	101	145
四半期純利益	2,641	2,178

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,742	2,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	201	683
繰延ヘッジ損益	1	4
為替換算調整勘定	77	3,489
持分法適用会社に対する持分相当額	16	124
その他の包括利益合計	141	4,293
四半期包括利益	2,601	6,617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,480	6,315
少数株主に係る四半期包括利益	121	301

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,942	3,252
減価償却費	2,223	2,242
貸倒引当金の増減額（は減少）	111	0
受取利息及び受取配当金	211	197
支払利息	227	218
固定資産処分損益（は益）	5	9
売上債権の増減額（は増加）	3,541	1,697
たな卸資産の増減額（は増加）	953	2,665
仕入債務の増減額（は減少）	1,159	1,440
段階取得に係る差損益（は益）	99	-
その他	559	130
小計	2,304	2,733
利息及び配当金の受取額	281	321
利息の支払額	235	207
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	1,232	1,311
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,117	1,535
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,100	3,517
有形固定資産の売却による収入	4	0
投資有価証券の取得による支出	11	11
貸付金の回収による収入	0	9
子会社増資による支出	235	98
子会社出資金の取得による支出	158	-
子会社株式の取得による支出	-	15
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	6	-
その他	44	373
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,538	4,006
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	2,224	3,028
長期借入れによる収入	1,668	2,200
長期借入金の返済による支出	2,384	2,531
社債の償還による支出	230	110
配当金の支払額	396	396
少数株主への配当金の支払額	98	119
その他	22	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	759	2,057
現金及び現金同等物に係る換算差額	27	717
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	633	304
現金及び現金同等物の期首残高	11,205	13,336
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 10,571	¹ 13,640

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	当第2四半期連結会計期間において、新たに設立出資したことに伴い、高砂香料西日本工場株式会社を連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間において、新たに設立出資したことに伴い、Takasago Madagascar S.A.を持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

下記関係会社等の金融機関からの借入等に対し、債務保証を行っております。

(債務保証)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
Dan Kaffe (Malaysia) SDN. BHD. (実質負担額)	241百万円 (111 ")	246百万円 (114 ")
Takasago International (Italia) S.R.L.	2 "	2 "
従業員	17 "	15 "
計	260 "	264 "

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	273百万円	百万円
支払手形	720 "	"

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給料及び手当	3,674百万円	4,141百万円
研究開発費	4,302 "	4,792 "

研究開発費については、複合科目として集計しております。なお、製造費用に含まれる研究開発費はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	10,571百万円	13,640百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金	"	"
現金及び現金同等物	10,571 "	13,640 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	397百万円	4円	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月13日 取締役会	普通株式	397百万円	4円	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	396百万円	4円	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月12日 取締役会	普通株式	396百万円	4円	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	米州	欧州	アジア	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高							
外部顧客への売上高	35,846	9,891	6,706	7,707	60,152		60,152
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,574	463	522	209	4,769	4,769	
計	39,420	10,355	7,228	7,916	64,921	4,769	60,152
セグメント利益又は損失()	2,822	9	68	1,005	3,768	41	3,810

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額41百万円は、セグメント間取引に係る内部損益取引の調整額81百万円、セグメント間取引に係るたな卸資産の調整額 36百万円、その他 3百万円であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	米州	欧州	アジア	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高							
外部顧客への売上高	35,478	13,195	8,622	8,937	66,234		66,234
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,040	560	827	278	5,707	5,707	
計	39,519	13,756	9,449	9,215	71,941	5,707	66,234
セグメント利益又は損失()	3,036	134	121	1,445	4,469	80	4,388

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 80百万円は、セグメント間取引に係る内部損益取引の調整額242百万円、セグメント間取引に係るたな卸資産の調整額 321百万円、その他 1百万円であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	26円61銭	21円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,641	2,178
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,641	2,178
普通株式の期中平均株式数(千株)	99,271	99,226

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第88期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当について、平成25年11月12日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	396百万円
1株当たりの金額	4円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月3日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

高砂香料工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金 井 沢 治

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 邊 道 明

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 信 田 力

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている高砂香料工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、高砂香料工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。